

「楽しい学校生活を送るためのアンケートQ - U」の有効活用術

1 「Q - U」は、どんなことに活用できますか？

- 一人ひとりの子どもたちを支援する
- 学級崩壊を予防する
- 不登校を予防する、いじめを発見・予防する
- 支持的・共感的な学級づくりを進める

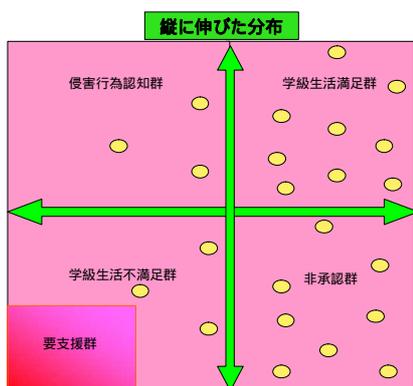
2 「Q - U」の結果から、どんなことが分かりますか？

一人ひとりの集計をプロット図に表すと、「学級生活満足群」「非承認群」「被侵害行為認知群」「学級生活不満足群」の4つの部屋に分かれます。基本的にわかるのは次の3つです。

- 一人ひとりの子どもの情報
- 学級集団の情報
- 学級集団における子どもたちの相対的位置

3 高知市で多く見られるプロット図の特徴とその対応例は？

(1) 縦型プロット図の特徴



高知市では、学級内の子どもたちが、学級生活満足群と非承認群に位置する縦長タイプのプロット図が多く見られています。このタイプでは、非承認群の子どもたちが学級生活不満足群に移行し、学級が荒れてくることが多いようです。

この学級集団は、学級内の子どもたちの承認得点が階層化していることに課題があります。学級内の子どもたちの承認得点が上下に開いているということは、学級内で認められる子どもとそうでない子どもたちがいる、ということです。例えば、授業中に発表する子どもはいつも

決まってまっっており、数人の子どもが中心となって授業が進んでいるような状態です。

この学級の対応は、全ての教育活動において、「ふれあいのある人間関係づくり」を進め、非承認群に位置する子どもたちの承認得点を上げていくことが重要になります。具体的な対応例を挙げます。

(2) 具体的な対応例

楽しさを共有できる活動を多く取り入れ、学級に明るく自由な雰囲気をつくります。

授業中など、学級内で一人ひとりが評価される内容や場面を多く設定します。

教師が意識して、非承認群の子どもたちに、当たり前のことでも、小さながんばりを見つけて、その都度ほめます。

生活班や学級活動を班で行う場合などに、その子どもの弱い自己表現を受け止めてくれる友だちの多い班を組織します。また、その子どもの能力でできる係活動の担当にし、まず役割を通して学級にかかわれるように配慮します。

人間関係づくりには、構成的グループエンカウンターの定期的な実施が有効です。単発的に行うよりは、10分程度のミニエクササイズを繰り返し、実施していくことが効果的です。

教師の失敗談などを自己開示し、子どもの失敗に共感的な態度をとるようにします。

非承認群や不満足群の子どもへの教師の接し方がモデルとなります。「元気がないね」「失敗はつきもの、気にしないで」などの温かい言葉がけをします。

4 「Q - U」実施後の流れは？

集計後、プロット図を作成する

子どもや学級の状態をアセスメント(見立て)する

具体的な対応策を考える

対応策を実施する

対応策を修正し、実施する

開発者の河村茂雄先生から

『Q - U』を実施しただけでは何も変わりません。つまり、子どもたちへの対応や教育実践の前に、しっかりアセスメント(見立て)しているのか、アンケート結果に基づいて対応や実践を工夫しているのかということが問われています。教師の日常観察と勘には限界があります、その事実を謙虚に受け止め、その限界を補う方法論を駆使して教育実践をすること。医師だって、患者の治療をする前に、必ず検査をします。『Q - U』の活用は、よりの確なアセスメント(見立て)に基づき教育実践をしようという、当たり前のことを、確実に、地道にやっっていこうという主張が込められています。プロット図を作成した後の対応が大切です。

5 手作業集計のメリットは？

学級担任が作業することを通して、児童生徒一人ひとりの質問への回答と集計結果をしっかり受け止めることができます。コンピュータ診断では、集計結果のみが示されるので、子どもたち一人ひとりの思いや願いが教師側に伝わりにくい面があります。作業を通して、手にとるように感じられることがあったり、あれこれ子どもや学級のことに思いをはせることができます。そして何より、作業を通して作成したプロット図を見ながら、具体的な対応を考えることができます。

【参考・引用文献】

- 1 Q - Uによる学級経営スーパーバイズ・ガイド, 企画・編集:河村茂雄他, 2004, 図書文化
- 2 学級経営コンサルテーション・ガイド, 編集:河村茂雄, 2000, 図書文化